

産経新聞 2020年11月30日 「ひこばえ倶楽部」への投稿掲載

(令和2年度入学) 高校1年(六か年コース) C組 上野 陽裕 君

近年、海にペットボトルや菓子の包装紙などのプラスチックごみが増えてきている。それらを目にするたびに、誰が、なぜ捨てたのかと考えてしまう。

僕はよく趣味で海釣りに行く。しかし釣りを始める前に、海に浮いているごみが楽しい気分を下げってしまう。魚を釣り上げるとき、糸にごみが絡まると、ほどくのかかなり時間がかかり、非常に迷惑している。

マナーの悪い釣り人や海に来た人がごみを放置して帰ってしまうのが一因だ。釣り糸に絡まって死んでいる魚を見る回数も、徐々に増えているように感じる。

海は徐々に汚れてきている。このまま何もしなければ、2050年までに、海のプラスチックごみの総重量が魚の重量を超えるという試算もある。

親子連れで海を訪れる人も多い。気持ちよく楽しんでもらうために、今から少しずつでも海のゴミを回収するイベントを行ってほしいと思う。